

令和5年度京都府アレルギー疾患診療等状況調査の結果概要

1 目的

アレルギー疾患に係る医療提供体制の確保、府民・医療機関への情報提供、実態把握による府のアレルギー疾患対策事業への活用等を目的に実施

2 時期

令和5年7月

3 調査方法

Microsoft Teams formにより回答。フォームは病院(診療科ごと)と診療所別で作成

4 調査対象

府内医療機関(病院:160機関 診療所:2,205機関)

5 回答率

病院:45%(72機関、160診療科)

診療所:28%(610機関)

6 主な調査結果

(1) 医師・スタッフの在籍状況

○アレルギー疾患の専門的な知識及び技能を有する医師

病院の半数、診療所の3割に在籍。全ての医療圏に在籍しているが、うち7～8割が京都・乙訓医療圏に在籍

○アレルギー専門医

病院の2割、診療所の6%に在籍。全ての医療圏に在籍しているが、うち8割が京都・乙訓医療圏に在籍

○PAE・CAI

京都・乙訓医療圏に各1名在籍するのみ。

(2) アレルギー疾患診療等の状況

○診療可能なアレルギー疾患

病院・診療所ともに「花粉症」の回答が最多。全ての医療圏で選択肢にある全てのアレルギー疾患を診療可能。

○実施可能なアレルギー検査

病院・診療所ともに「血液検査」の回答が最多。京都・乙訓医療圏では選択肢にある全てのアレルギー検査を実施可能だが、その他医療圏では実施不可の検査もある。

○実施可能なアレルギー治療等

病院・診療所ともに「エピペン処方」の回答が最多。京都・乙訓医療圏及び山城北医療圏では選択肢にある全てのアレルギー治療等を実施可能だが、その他医療圏では実施不可の治療等もある。

○アレルギー専門外来の設置状況

病院の14%、診療所の3%に設置。そのうち7～9割が京都・乙訓医療圏である。

(3) 重症者の状況

○エピペンの処方状況

全ての医療圏で処方を実施しており、回答のあった病院全体での年間おおよそ処方件数は720件で、診療所全体での年間おおよそ処方件数は371件であった。

○アナフィラキシー患者の受入状況

病院の半数が受入を行っており、全ての医療圏に受入可能な病院がある。回答のあった病院全体での年間おおよそ受入件数は640件であった。

(4) 医療機関連携の状況

○アレルギー疾患患者の専門病院等への紹介

病院・診療所ともに半数程度で紹介の実施があり、全ての医療圏で実施している。回答のあった病院全体での年間おおよそ紹介件数は198件で、診療所全体での年間おおよそ紹介件数は1,079件であった。

○主な紹介先

紹介先として京都・乙訓医療圏の病院を挙げている病院・診療所が多かった。

(5) その他アレルギー疾患に係る取組みの状況

○保育施設、学校施設に係る生活管理表の作成

病院・診療所ともに2割が作成しており、全ての医療圏で作成している。回答のあった病院全体での年間おおよそ作成件数のうち4割が京都・乙訓医療圏で、診療所全体での年間おおよそ作成件数のうち8割が京都・乙訓医療圏である。

(6) アレルギー疾患診療等における課題等

「適切な処置を行える設備・人材の不足」「アレルギー疾患に対する医療従事者の認識の相違、患者の知識不足等」「他医療機関との連携困難、近隣の専門機関・専門医の不足等」の順に回答が多かった。